

自 己 評 価					学校運営協議会評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校運営協議会委員の意見	
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度		総合評価・所見	
		[教務課] 1)「学校で基礎学力をつけることができた」の肯定的回答(生徒)の割合が82%以上をめざす。(R5 79.1%) 2)「学校の授業が充実していると感じる」の肯定的回答(生徒)の割合が75%以上になるよう、工夫された授業の実施を目指す。(R 5 73.4%) [進学課] 1)自らの進路について考えるきっかけを持たせるために、進路ホームルームや進路集会、講演会などを年間3回程度行う。 2)学習時間調査において学年＋1時間の学習時間を目指す。(R5 平均学習時間 1・2年とも 1.9時間) [図書視聴覚課] 1)図書館利用と読書機会の増加を図る。生徒一人平均の年間貸出冊数を5.0冊以上にする。(R5 4.2冊) 2)1、2年生の図書館利用と読書機会を増加させる。各1000冊以上。(R5 1年878冊、2年628冊) 3)文学以外の貸出を増加させる。(とくに設定はなし)	[教務課] 1)生徒の「学校で基礎学力を付けることができた」の肯定的回答は、全体平均で82.4%であった。 2)生徒の「学校の授業が充実していると感じる」の肯定的回答は、全体平均で79.8%であった。 [進学課] 1)1、2年生において各学期1回の進路HRの時間は確保はできたが、講演などは1回しか開催できなかった。 2)平均学習時間は1、2年生共に1.9時間であり、昨年と変わらない結果であった。 [図書視聴覚課] 1)1学期は例年以上の貸出の伸びがあったが、夏期休暇以降低迷した。生徒一人平均の貸出冊数は2.9冊(3.10現在)で昨年度より大きく落ちた。 2)1年生887冊、2年生261冊(3.10現在)と読書習慣の定着とはならなかった。 3)文学以外の貸出は昨年度以上であったが、全体の貸出数減少に伴うものである。		・基礎学力とはどのようなものか、生徒も保護者も曖昧な状態の可能性はある。具体的な指標を示すなどしてアンケートを実施することが必要ではないか。 ・1年次に勉強の仕方を教えた、モチベーションを上げさせたりすることが重要だ。生徒が自学・自習するために何が必要か、教科会等を通して考えてほしい。 ・限られた時間内で、よりわかりやすい授業をするために、指導方法の工夫・改善が不可欠だ。教科会を充実させて、各教科で様々な対策を考えてほしい。	[教務課] ・授業の工夫や課題・小テストの実施だけでなく、生徒自身が勉強の必要性を理解し、自主的に取り組む態度を培っていくような取組も必要と考えられる。 ・授業交流週間や教科会を行っている理由を先生方で考えていただき、時期や回数等を検討していく。
	1 学習指導の充実 (1)基礎的・基本的な知識や技能の定着を土台とし、自ら考え、判断し、表現できる力を養う。 (2)教育DXの推進等により、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。		[学年] 1)基礎基本の定着を図り、欠点科目の減少に努める。 2)自主学習時間の確保に結びつくよう、年間3回は取組の内容を確認・評価する。 3)学力の定着を図る学年集会を各学期に2回以上実施する。	[学年] 1)日々の予習・復習を呼びかけ、基礎基本の定着を図った。各学期末での欠点保持者に対しては、基礎学力補充講座を実施し、学力の向上を図った。 2)毎月の学習時間調査等、家庭学習の状況を把握しながら、学習への取組を評価し、指導した。 3)各学期初めや城北祭後等、その時に機会を捉えて学年集会を開催し、気持ちの切り替えと積極的な学習への取組を促した。	[図書視聴覚課] [評価B] ・早い時期から明確な進路目標を持つことは大切だが、そのための仕掛けをいらないと工夫する必要がある。学年団でまず課題を挙げてもらい、それを支援していく形が取れるような仕組みにしていきたい。 ・1年から2年に学年が上がっても、学習時間が上積みされていない。 ・進学を希望する多くの生徒が自分の目指す大学へのチャレンジを最後まで諦めず向かっていく前向きな姿勢が見られる。	[進学課] ・少子化が進むなかで、大学や専門学校発出の大量の進路情報があふれる現状があるにも関わらず、生徒の情報収集能力には課題が見られる。必要な情報をどのように集め、目標設定させるかが進路指導の第1歩になりつつあることを特に低学年次から学年団と情報共有していきたい。 ・主体的に学ぶ生徒を育成するためには目標設定が不可欠である。生徒が着実に歩みを進められたと実感できる目標設定のあり方や、授業評価などを積極的に行っていくべきである。
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		[図書視聴覚課] [評価B] ・全体的には読書傾向の多様化や学問分野との関係性補強が見られたが、読書冊数や読書の日常化の点で十分とはいえなかった。	[学年] ・保護者の協力もいただきながら、基本的な生活習慣の確立の実現に向けて指導を行ったが、個人面談や三者面談をさらに充実させ、家庭と連携しながら家庭学習時間を増加させたい。
		[教務課] 1)2)教師の授業改善につなげる教科会と授業交流週間の実施 2)授業交流週間を年2回実施。授業参観教員数の延べ人数75人以上(R5 延べ56人)	[教務課] 1)教科会を年6回実施した。各教科において、教育課程や観点別評価の工夫等について話し合ってもらった。時期によっては教員の都合がつかず、文書開催となる回もあった。 2)授業交流週間を6月と11月の計2回実施することができた。授業参観のべ人数は6月が40名、11月が34名で計74名であった。			
		[進学課] 1)考查やテストの意義を伝え、学習習慣を定着させるための適切な内容の一斉テストや定期考査を実施する。 2)平日の家庭学習時間が「学年＋1時間」となるよう、各教科で工夫をした課題の設定を行う。	[進学課] 1)校内で実施する試験の意義や準備の必要性をすべての教員が生徒に対して周知する。また、最新の大学入試や模試の問題傾向を全校で共有し、作問の質の向上に努め作問に反映させる。 2)生徒が自発的に取り組めるワークシートや課題を作成し、授業を通して取組を促す。	[進学課] 1)校内で実施した模試については、実施後、全教職員が自由に閲覧、利用できるように一定期間、職員室に配置した。必要があればいつでも過去問等を利用できるようにしている。 2)3年生については毎日、通行する廊下に自主学習用のワークシートを設置し、利用を促した。1、2年生についてはClassiの機能を利用し、課題を配信したり、提出の仕方を工夫したりする取組が見られた。	[学年] [評価B] ・各学年において、それぞれの学年が持つ達成目標に違いはあるが、実現すべき目標に向かって各学年団、また3つの学年団が常に連携しながら、生徒一人一人の進路実現に向けて丁寧な指導を行った。	
		[図書視聴覚課] 1)読書習慣を身につけるための日常的な読書指導の推進を図る。 2)小論文や受験に関わる指導を契機に読書の内容を充実させる。 3)趣味的な読書以外にも読書の必要を実感する機会を作る。	[図書視聴覚課] 1)授業機会や個別の指導、図書館だよりなどによって、読書の必要性を見だし問題意識を高揚させる。 2)進路や学問的教養と読書との直接的な関係性について、授業や個別指導の機会に具体的に意識を高める。 3)社会や世界に対する認識の方法として読書の有効性を説き、学習課題としても読書を啓発する。	[図書視聴覚課] 1)授業における利用、個別指導や自習空間の提供、読書啓発としての図書館だより発行を適宜行った。 2)読書啓発の機会を授業時間を中心に、緩やかながら読書意欲の喚起が行われた。 3)一部生徒の間に趣味的な読書の範囲を超えて学問への関心の高まりが見られた。		
		[学年] 1)予習→授業→復習サイクルの習慣化による、学習内容の定着を図る。 2)自らの現状を理解した上でそれぞれの課題を設定し、主体的に学習に取り組ませる。 3)進路目標の達成に向けて、時期に応じた目標設定をさせる。	[学年] 1)タブレットを活用して学習時間を確認し、生徒一人一人に学習習慣の定着を徹底させる。 2)「なぜば成るノート」やタブレットを活用した面談により、取組内容を確認・評価する。 3)学年集会を実施し、適切な時期に意欲を高め、やるべきことを理解させる。	1)タブレットを活用した学習時間調査を通して、学習への取組状況を把握し、適切な指導を行った。 2)「なぜば成るノート」を介した担任とのやりとりや昼休み・放課後の時間を利用した個別面談により、生徒一人一人の生活状況や進路希望の把握に努め、日々の反省や早期の目標設定を通して、向上了心のある取組を促した。 3)適切な時期に学年集会を行い、その時々に必要な意識づけと意欲の向上を図った。		

自 己 評 価					学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校運営協議会委員の意見	
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	・基礎学力の定着が重要だ、1年次の秋までに、中学校の復習をしっかりと、学力を伸ばす工夫をしてほしい。 ・先生方が多忙で、生徒が教科の先生に質問していくのをためらうことがあると聞いている。先生に質問する時間や窓口があれば、生徒の学ぶ意欲の向上につながる。 ・基礎学力の定着が重要だ、1年次の秋までに、中学校の復習をしっかりと、学力を伸ばす工夫をしてほしい。 ・先生方が多忙で、生徒が教科の先生に質問していくのをためらうことがあると聞いている。先生に質問する時間や窓口があれば、生徒の学ぶ意欲の向上につながる。	1) 国語 基本的な知識の習得のため基本事項の確認を徹底したい。その上で思考力を問う実践を工夫し、授業の中で生徒たちに取り組ませていく。 2) 地歴・公民 共通テスト問題への対策を見越した授業展開、考査作成を実施する。放課後や長期休業時の希望制演習問題補習を充実させる。 3) 数学 3年間を通しての進度や、よりよい3観点での評価方法の研究を今後も続ける必要がある。 4) 理科 思考力や判断力を育成する機会として、実験・観察の充実は欠くことができない。実験・観察の機会をより充実させることは今後も検討していく必要がある。今後、実験・観察教材の共有やデータベース化を進めていきたい。 5) 英語 観点別評価の基準を明確にし、生徒の学力をいかに正確に評価していくか、その方法や評価規準について十分精査し、生徒の学力伸長に取り組んでいきたい。
		[教科] 1) 国語 ①月2回の課題提出率90%以上。(R5 90%) ②小テストの月2回以上の実施と合格率80%以上。(R5 73%) 2) 地歴・公民 ①授業評価による授業満足度を85%以上。(R5 地歴93.0% 公民84.4%) ②Classiを活用し、1学年地理総合の作図課題等を提出させる(年3回以上)、小テストをWebテストで実施する。(R5 課題提出3回、小テスト配信4回) ③予習復習プリント(提出課題)提出率95%以上。(R5 96%) 3) 数学 ①週末課題プリント提出率90%以上。(R5 84.1%) ②小テストの実施と再テスト合格率95%以上。(R5 95.0%) 4) 理科 ①実験・観察(演示実験含む)を入れた授業を各講座で年間4回以上実施する。 ②長期休業中の課題提出率85%以上。(R5 88.1%) 5) 英語 ①家庭学習課題の提出率85%以上。(R5 82%) ②語彙力・文法等の小テスト平均正答率70%以上。(R5 65%)				
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
	[教科] ○基礎・基本の徹底と定着 ○学習指導法の改善	[教科]	[教科]	[教科]		
	1) 国語 ・言語に関する知識・理解の深化 ・思考を深める力の育成 ・読む・書く力の向上	1) 国語 ①各単元・授業及び定期考査で思考を問う発問を課す。 ②評価のフィードバックを行う。 ③観点別評価を行う。	1) 国語 ①授業や定期考査の中で思考を問う問題を多数設定し、思考力を高めるよう発問を工夫した。 ②ノートや課題点検を実施し、その結果を授業内容に反映させた。 ③観点ごとに適切な評価を行った。	1) 国語 (評価B) ・課題の提出率はやや目標に届かなかった。 ・小テストの正答率は86%であった。 2) 地歴・公民 (評価B) ・目標値に達していない項目があるが、概ね目標を達成できた。次年度もICT活用方法について研究し、実践したい。 3) 数学 (評価B) ・目標値には到達しなかったが、課題提出率は昨年度を上回った。次年度に向けて、課題および小テストの実施方法や、ICT教材の活用方法を今後も引き続き検討する必要がある。 4) 理科 (評価B) ・今年度、実験・観察に関する評価の評価指標を変え、現状把握しやすく改善した。各講座あたりの平均実施回数とし、各学期1回+αで年間4回の目標を設定したが、十分とはいえない結果となった。多くの教員の平均実施回数が1回ということがわかり、今後の課題がよくなった。 5) 英語 (評価B) ・課題の提出率も小テストの得点も目標にわずかに届かなかった。小テストに活かすことのできる課題の精選や、小テストの復習課題などの充実など、基本事項の定着を図る必要がある。		
	2) 地歴・公民 ・基礎基本の定着 ・思考力を深める力の育成 ・技能を習得させる活動の実施	2) 地歴・公民 ①予習復習プリント(提出課題)を実施する。 ②共通テスト対策に取り組ませ、思考力を育成する。 ③作図ソフトやデータソフトを活用して技能を習得させる。	2) 地歴・公民 ①授業や定期考査の中で思考を問う問題を多数設定し、思考力を高めるよう発問を工夫した。 ②ノートや課題点検を実施し、その結果を授業内容に反映させた。 ③観点ごとに適切な評価を行った。	2) 地歴・公民 (評価B) ・目標値に達していない項目があるが、概ね目標を達成できた。次年度もICT活用方法について研究し、実践したい。 3) 数学 (評価B) ・目標値には到達しなかったが、課題提出率は昨年度を上回った。次年度に向けて、課題および小テストの実施方法や、ICT教材の活用方法を今後も引き続き検討する必要がある。 4) 理科 (評価B) ・今年度、実験・観察に関する評価の評価指標を変え、現状把握しやすく改善した。各講座あたりの平均実施回数とし、各学期1回+αで年間4回の目標を設定したが、十分とはいえない結果となった。多くの教員の平均実施回数が1回ということがわかり、今後の課題がよくなった。 5) 英語 (評価B) ・課題の提出率も小テストの得点も目標にわずかに届かなかった。小テストに活かすことのできる課題の精選や、小テストの復習課題などの充実など、基本事項の定着を図る必要がある。		
	3) 数学 ・基本的な概念、原理・法則の体系的な理解 ・数学的な表現を用いた事象の考察の徹底	3) 数学 ①週末課題プリントの改良及び配布とフィードバック ②小テストの実施とフィードバック ③現実事象など具体的な教材について、グループで活動したり、ICTを活用したりして、考察を深める活動ができるよう工夫する。	3) 数学 ①計画どおり実施した。 ②小テストでは基本事項の復習を重視し、再テストの実施方法を工夫するなどした。 ③現実事象を用いた演習問題でICTを活用し、考察を深めた。	3) 数学 (評価B) ・目標値には到達しなかったが、課題提出率は昨年度を上回った。次年度に向けて、課題および小テストの実施方法や、ICT教材の活用方法を今後も引き続き検討する必要がある。 4) 理科 (評価B) ・今年度、実験・観察に関する評価の評価指標を変え、現状把握しやすく改善した。各講座あたりの平均実施回数とし、各学期1回+αで年間4回の目標を設定したが、十分とはいえない結果となった。多くの教員の平均実施回数が1回ということがわかり、今後の課題がよくなった。 5) 英語 (評価B) ・課題の提出率も小テストの得点も目標にわずかに届かなかった。小テストに活かすことのできる課題の精選や、小テストの復習課題などの充実など、基本事項の定着を図る必要がある。		
	4) 理科 ・論理的思考力、表現力の育成 ・基礎・基本の定着	4) 理科 ①実験・観察のレポートや授業のワークシートの考察等の質問内容を工夫し、生徒の振り返りをしやすくしたり、評価にいかしたりできるように工夫する。 ②長期休業中の課題を与え、未提出者なしを目指す。	4) 理科 ①計画通り実施した。今後、改善を進める。 ②計画的に課題設定し、基礎・基本が定着するように工夫した。	4) 理科 (評価B) ・目標値には到達しなかったが、課題提出率は昨年度を上回った。次年度に向けて、課題および小テストの実施方法や、ICT教材の活用方法を今後も引き続き検討する必要がある。 5) 英語 (評価B) ・課題の提出率も小テストの得点も目標にわずかに届かなかった。小テストに活かすことのできる課題の精選や、小テストの復習課題などの充実など、基本事項の定着を図る必要がある。		
	5) 英語 ・基礎・基本事項の定着 ・学習意欲および国際性を高めるための授業内容の精選	5) 英語 ①語彙・文法・読解等の課題を与え、事後指導まで行う。 ②適切な場面でのICT教材の活用や、生徒の興味を喚起する教材開発を行う。また定期的に小テストを実施し、語彙力および文法力の定着を図る。	5) 英語 ①学年ごとに計画を立て、課題や小テストが定期考査や校外模試の参考となるように工夫しながら実行した。 ②教科書や副教材の内容を基に、タブレットを用いた授業や課題提出を積極的に取り入れた。	5) 英語 (評価B) ・課題の提出率も小テストの得点も目標にわずかに届かなかった。小テストに活かすことのできる課題の精選や、小テストの復習課題などの充実など、基本事項の定着を図る必要がある。		

自 己 評 価					学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校運営協議会委員の意見	
生徒個々の進路希望を実現するための情報提供及びキャリア教育の推進	(全校レベル)	<p>[進学課]</p> <p>1) 将来の目標を持ち、進路に対する意識を高めるための集会や講演会を各学年で学期に1回以上実施する。</p> <p>2) 共通テスト出願率70%以上を目指す。 (R5 出願率71.5%)</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 公務員説明会を生徒の希望職種ごとに各1回以上開催すると共に、校外での説明会に積極的に参加させる。</p> <p>2) 2年生対象にインターンシップを実施し、進路決定に関する意識の向上のため5名以上の参加者を目指す。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1) 総合的な探究の時間の生徒の満足度70%以上。(R5 65%)</p> <p>2) 理数科学科の生徒の各活動に対する満足度85%以上。 (R5 98.9%)</p> <p>3) キャリア・パスポートを年間4回以上生徒に記入・整理させる。 (R5 4回以上記入:30.4%)</p>	<p>[進学課]</p> <p>1) 外部講師による講演会も行ったが、学期ごとには行えなかった。</p> <p>2) 大学入学共通テストへの出願は人数的には昨年とほぼ同様だったが、率は63.3%と昨年より大きく下がった。</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 生徒の希望状況に合わせ、警察官、自衛官(随時複数回)の校内説明会を実施した。また校外で実施された各種説明会については、希望者各自でそれぞれの説明会に参加する方法をとった。</p> <p>2) 県関係事業所でのインターンシップ参加の募集を行ったが、参加者は0名であった。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1) 「総合的な探究の時間は主体的学習意欲の向上に役立っている」のアンケートに対する生徒の肯定的回答は71%で、昨年度を上回った。達成感を得られる体験ができたのではないかと。</p> <p>2) 理数科学科の教育活動全般に対する生徒の満足度は100%と昨年度を上回り、高い割合となった。充実した活動ができたことを生徒が実感できている。</p> <p>3) キャリア・パスポートを生徒に記入・整理させたのは4回が41%、3回が18%で、昨年度を上回った(5回目には3月に実施予定)。</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>[進学課] (評価B) ・外部の講演をあまり活用しなかったため、文理選択や進路に関するHRを各担任主体で任せることが多かった。学年団の状況や要望をきめ細やかに聞き取り、企画を提案する必要がある。 ・進路保護者会に参加していたくない保護者に対して、進学に関する情報をどう提供するか、どう子どもと一緒に考えてもらえるかが一番の課題である。</p> <p>[就職課] (評価B) ・学年集会での就職指導や公務員説明会を行うことで、早期からの意識付けをするきっかけとなり、自主的に公務員模試を受験する生徒が増えてきた。 ・生徒の希望する業種への企業訪問や連携を行い、必要な求人を確保することができた。 ・就職指導室の環境を整え、各種説明会、自主学習や面接練習として活用することができた。</p> <p>[キャリア形成支援課] (評価A) ・総合的な探究の時間は、外部より助言指導者を招聘することで、生徒は適切な助言を得て視野を広げ、発表のスキルを身につけるなど成長した姿が見られた。 ・理数科学科の教育活動について、生徒がその意義を理解して前向きに取り組む、自身の成長を実感していると推察する。 ・キャリア・パスポートについては、Classiへの記入にしたことで負担が軽減し、少しずつ習慣が定着していることが窺える。生徒教員ともに忙しい学校生活の中では、記録する時間を割かなくてはならないが、それが役に立つ機会があまりないという意識が、整理・記入をさせる機会が高い割合にならないことに影響していると考えられる。</p>	<p>・外部講師による講演は、生徒たちに物事を考えさせ、おもしろい世界があると気づかせるものだ。生徒が様々な世界を知ると、やる気につながる。生徒の意欲をかきたてるような人の話を聞く機会を設けることが大切だ。</p> <p>・探究活動は、今後ますます教育活動において重要になる。学びに対するワクワク感や自立感を持たせてほしい。</p>	<p>[進学課] ・共通テストを利用する入試を活用することで、進路選択の幅が広がることを周知し、出願を促す。 ・各HRで進路に関するどのような課題があるのかを学年主任を中心に話し合う機会を持ち、学年団全員で進路指導にあたる体制を創っていきたい。</p> <p>[就職課] ・できる限り早期に生徒の特性や希望状況を把握し、必要な求人情報を確保する。 ・保護者に対してでもできる限り多くの情報を提供し、連携を図りながら希望職種・事業所等のミスマッチをなくす。 ・学年集会や進路保護者会を通して、就職に対する早期からの意識付けを図る。</p> <p>[キャリア形成支援課] ・来年度に向け、生徒が探究活動に取り組みやすいように、すでに改善計画を進めている。 ・理数科学科の県外研修は、来年度は研修先を関西とし、1泊2日に変更して経済的、時間的負担を軽減させた。充実した研修になるよう改革中である。 ・キャリア・パスポートについては、その学校生活での位置づけと効用について生徒へ繰り返し説明をする。利用の定着に向けて継続して取り組み、教員の利便性をより向上させられるよう工夫したい。</p>
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	[進学課]	<p>1) 進路選択に関する情報提供を充実させる。</p> <p>2) 全職員がデジタル情報サービスを通じて生徒の学力状況を共有し、組織的かつ手厚い進路指導を継続する。</p>	<p>[進学課]</p> <p>1) 学年団やPTAと連携した進路保護者会を学年ごとに開催する。</p> <p>2) Classiやホームページ等を活用し、生徒や保護者に進路情報の発信を行う。</p> <p>3) 教職員全員にデジタルサービスへの登録を促し、活用の仕方を伝達する。</p>	<p>[進学課]</p> <p>1) 本年度の進路保護者会は、すべての学年において対面で実施した。</p> <p>2) Classiでのやりとりは定着してきたので、保護者がどのような進路情報を求めているのかについて把握し、必要な情報を提供できる体制を整える必要がある。</p> <p>3) 本年度も学年を超えて、校内の多くの教職員が生徒の進路実現のために惜しみなく協力をしてくださった。</p>		
	[就職課]	<p>1) 就職活動の情報源として、各種説明会や職場見学に加えてインターネットの活用を図る。</p> <p>2) 生徒のキャリア教育推進のための校外体験活動を推進する。</p>	<p>[就職課]</p> <p>1) ・自衛官・公務員・警察官等の説明会を実施する。また公務員模試を複数回実施する。</p> <p>2) ハローワーク提供の高校向けインターネット求人情報を最大限に利用する。</p> <p>3) 生徒の希望する職種でインターンシップに協力してもらえる事業所を開拓する。</p>	<p>[就職課]</p> <p>1) 警察官、自衛官ともに年間を通して複数回の説明会を希望生徒を対象に実施した。 1学期は3年生が校外公務員模試に参加、2学期は1、2年生を対象に校内で公務員模試を3回実施した。</p> <p>2) ハローワークの高校向けインターネット求人情報を活用し、県外就職希望者に情報提供することができた。</p> <p>3) 県関係事業所へのインターンシップ参加募集をしたが、参加希望者がいなかった。</p>		
	[キャリア形成支援課]	<p>1) 2) 将来への展望を持たせることにより、目標設定や社会に参画する意識を高め、社会的・職業的な自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育成する。</p>	<p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1) 普通科 総合的な探究の時間(P-time) ①フィールドワークなど生徒の探究活動への主体的な取組を推進する。 ②生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、年間2回発表会を開催する。</p> <p>2) 理数科学科 理数探究基礎・理数探究(SP-time) ①生徒の探究活動への主体的な取組を推進する。 ②生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、年間2回発表会を開催する。</p> <p>3) 年間5回のキャリアパスポートの日に、生徒に記入・整理させることを通じて、自己の生き方や進路を真剣に考える態度を育成する。</p>	<p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1) 2) 総合的な探究の時間(P-time)、理数探究基礎・理数探究(SP-time) ①2年生では、多くのグループがフィールドワークや幼小中学校への出前授業等、生徒の探究活動や主体的な取組を活発に行うことができた。 ②普通科、理数科学科とも1年生は1回、2年生は2回生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、発表会を開催した。生徒が取り組むそれぞれの専門分野の外部講師を招聘することにより、生徒は緊張感をもって取り組み、適切な助言を得られた。</p> <p>3) 「キャリアパスポートの日」には担当者が職員朝会で担任に呼びかけ、Classiへの記入を促すなどした。活用率は昨年度より少し上がった。</p>		

自 己 評 価					学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校運営協議会委員の意見	
部活動のさらなる活性化と、生徒会や各種委員会の諸活動の充実	(全校レベル)	<p>【特別活動課】</p> <p>1) 部活動入部率の向上を目指し、生徒の自主的活動を促す。部活動を通して集団の一員として必要な協調性・責任感・連帯感などの力を身につけさせる。部活動教育貢献度を80%以上を目指す。 (R5 生徒79% 保護者77%)</p> <p>2) 生徒会・各種委員会を中心とし、生徒主体で学校行事(球技大会・学校祭・予餞会・激励会など)に取り組み、活性化を図る。生徒評価で肯定回答を80%以上を目指す。 (R5 79%)</p> <p>3 特別活動の充実 (1) 生徒の自主的な活動を推進することにより、個性を伸ばし、主体性や行動力を養う。 (2) 部活動の適正化、活性化により、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などを育てる。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>【特別活動課】</p> <p>1) 1年生の全員入部を廃止したが、部活動入部率は昨年と変わらない。部活動を通して集団の一員として多くの力を身につけることができた。部活動教育貢献度は目標を達成することができた。 (R6 生徒78.8% 保護者 82.3%)</p> <p>2) 生徒会・各種委員会は昨年に比べ、活発に活動でき活性化が図れた。しかし、一般生徒の評価は目標を達成できなかった。 (R6 75.4%)</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>【特別活動課】 (評価B)</p> <p>・部活動に入部している生徒は多くの力を身につけることができた。より多くの生徒が部活動に所属し、学校生活を充実したものにしていきたい。</p> <p>・生徒会・各種委員会では少しずつであるが生徒主体の活動ができ、活性化を図ることができた。このような活動が生徒全体に浸透することを期待する。</p>	<p>・評価指標が少ない。部活動での活躍も多く、生徒が主体となる様々な活動をしているので、評価指標を増やしてもよいのではないか。</p> <p>・昨年度から生徒総会を実施しているとのことだが、生徒が意見を述べる場があるということは非常に良いことだ。</p>	<p>【特別活動課】</p> <p>・魅力ある部活動により多くの生徒を所属させ、部活動を通して多くの力を身につけさせる。</p> <p>・生徒会・各種委員会を中心に生徒主体で学校生活の中の様々な行事を企画・運営し学校生活をより良くしていく態度を養う。</p> <p>・部活動連絡協議会・生徒総会などをますます充実させ、生徒主体の学校生活が送れるよう促していく。</p>
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	【特別活動課】	【特別活動課】	【特別活動課】			
	<p>1) 部活動活性化のために、部活動連絡協議会を開催し、生徒主体で魅力ある部活動の運営を目指す。</p> <p>2) 生徒会活動・各種生徒委員会の活性化を推進する。</p>	<p>1) 各学期に部活動連絡協議会を開催し、部活動の在り方や要望など、生徒が自主的に活動を進めることを促す。</p> <p>2) 生徒総会の開催・各種生徒委員会の開催を通して、生徒主体の様々な活動を進めながら活性化を図る。</p>	<p>1) 年度初めの1学期に部活動連絡協議会を開催した。部長を中心に部活動の活性化について考え、部員全体が学校の中心となる活動を行っていくことを促した。</p> <p>2) 7月・12月に生徒総会を開催した。校則の改定や要望などをクラスから出し、議長会などを通して進めることができ、来年度に向けた課題についても意見が出た。生徒主体の活動が進められ活性化を図ることができた。各種委員会も活発な活動ができた。</p>			

自 己 評 価					学校運営協議会評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校運営協議会委員の意見	
豊かな心を育み、幅広く調和のとれた人材の育成と人権教育活動の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	特になし	[人権教育課] ・人権学習は日常生活の中にあるが、様々な問題を自分事として捉え、考えを深めるために人権ホームルーム活動を設定している。教師と生徒が一つの問題についてともに学び、そしてともに成長する場がホームルーム活動であると考え。扱うテーマについては、日常的課題から今日の新たな課題まで、今後より一層精選し、深く学び、ともに学んだと実感できるホームルーム活動になるよう取り組んでいく。
	4 人権教育の推進 (1)人権尊重の精神の涵養に努め、人権意識の高揚を図る。 (2)教育活動全体を通して豊かな人間性を形成し、互いに尊重する態度を育成する。	[人権教育課] 1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で、肯定評価を81%以上にする。(R5 79.6%) 2)人権教育関連行事に対する生徒の評価で肯定回答を83%以上にする。(R5 82.6%) 3)各教科における人権学習・人権教育を必要に応じてICTなどを活用して計画的に実施する。(R5 おおむね良好) 4)生徒対象の人権教育講演会を年2回以上実施し、肯定評価を83%以上とする。(R5 82.6%) 5)全体の人権教育研修会を年1回以上実施する。(R5 3月に実施)	[人権教育課] 1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で、肯定評価は74.4%であった。 2)人権教育関連行事に対する生徒の評価で肯定回答は76.9%であった。 3)各教科における人権学習・人権教育をタブレット・ICTなどを活用し、計画的に実施することができた。 4)生徒対象の人権教育講演会を年2回実施し、肯定評価は76.9%だった。 5)全体の人権教育研修会は今年度は3月に実施する予定である。	[人権教育課] (評価B) ・人権ホームルーム活動では1年次に「青い目・茶色い目」を視聴し、続いて「ハンセン病」「多様な性のあり方」「アイヌについて」等様々な人権問題の解決に向けて取り組んだ。2年次では「部落の歴史」「災害と人権」「外国人の人権」、3年次では「就職差別」「結婚差別」など、身近な差別の実態について学び、考えた。このホームルーム活動に対する生徒評価では、肯定評価が74.4%であった。また5月と11月に実施した「人権集会」に関する生徒評価は、肯定回答が76.9%であった。どちらも評価指標を下回る結果となっており、今後、人権ホームルーム活動の主題、人権集会の形態の見直しについて検討が必要であると考える。		
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	[人権教育課]	[人権教育課]	[人権教育課]			
	1)ホームルーム活動の充実	1)アンケートを実施し、社会の状況や生徒の学びに合わせて資料を集め採択し、ICTを活用するなど展開を工夫する。	1)アンケートを実施し、社会の状況や生徒の学びに合わせ動画資料を含めた資料を集め採択するなど、ICTを活用した展開を行った。			
2)人権集会・人権習慣に向けての取組の充実	2)人権集会・人権月間に向け、人権委員や社会問題研究会の部員を中心とした生徒に人権問題をテーマとした展示物を作成し、啓発に努める。 3)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施する。 4)生徒・保護者対象の人権教育講演会を5月と11月に実施する。 5)教員対象の人権教育研修会を12月に実施する。	2)人権集会・城北祭・人権月間に向け、人権委員や社会問題研究会の部員を中心とした生徒に夏休みの宿題として人権問題をテーマとした展示物を作成し、城北祭・人権月間において展示し、啓発に努めた。 3)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施した。 4)生徒対象の人権教育講演会を年2回実施した。第1回人権集会は5月30日(木)、精神福祉士 間愛結美氏をお招きし、「精神保健福祉士の現場から考える『貧困と社会を支える仕組み』」と題して実施した。第2回人権集会は11月14日(木)、公益財団法人 反差別・人権研究所みえ(ヒューリエみえ)研究員 松原淳氏 をお招きし、「部落問題って、だれの問題ですか?～今もある部落差別の現実から考える～」と題して実施した。 5)全体の人権教育研修会は今年度は3月に実施する予定である。				

自 己 評 価				学校運営協議会評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校運営協議会委員の意見	
規範意識の一層の向上とルールを守りモラルやマナーを大切に する心、いじめをゆるさない心の育成	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	・いじめのアンケートは難しく、誰が見るかによって回答の書き方が変わる。大学に専門家がいるので、相談・活用してほしい。 ・保護者に対するアンケートがあってもいいのではないか。学校と保護者の協力体制ができればより良いと思う。 ・交通事故については、余裕のない運転や安全確認が不十分であった等を理由とするものが多かった。 ・いじめ調査の結果を、いじめに繋がる恐れのある言動等の早期把握と対応に繋げることができた。表面化していないだけの事案があるかもしれないので、小さな変化に注意して対応していくことが必要である。	[生徒指導課] ・基本的生活習慣の確立を図るために、遅刻防止に向けた活動を学校を挙げて行う。 ・自転車安全教育の徹底と強化を図り、自転車マナーの規範意識・ヘルメット着用を向上させ、交通事故の防止に向けた指導を継続していく。 -いじめに繋がる恐れのある言動を見逃さないように、生徒観察に努め、教員間の情報共有を密にしながら継続して行う。
		[生徒指導課] 1)モラルや社会的マナーの指導の強化について、生徒・保護者の肯定回答を83%以上とする。 (R5 生徒 83% 保護者 81%) 2)年間総遅刻数を前年に比べ10%削減する。 (R5 3学期末で1637人) 3)軽微なものも含め、登下校時の交通事故件数を前年に比べ10%削減する。 (R5 交通事故件数 23件 3学期末) 4)いじめを許さない指導。いじめアンケートを年2回実施する。	[生徒指導課] 1)身近な事案を取り入れながら、学校全体で指導に取り組み、意識の変革と向上に努めた。生徒・保護者の肯定回答は両者共に80%を上回った (生徒84%、保護者80%) 2)1・2学期の遅刻数1081人。昨年より減少傾向にある。 3)通年指導やマナーアップでの呼びかけを行ったが、事故報告数は昨年より増加した。 (1月31日現在の報告数 30件 昨年同時期 17件) 4)いじめ調査は7月・2月の2回(予定)実施し、結果を全教職員で共有した。		
	(下位組織レベル)	評価指標	活動計画の実施状況		
		[生徒指導課] 1)道徳的・社会的マナーの指導と情報モラルの育成 ①頭髮服装指導の強化 ②情報機器の安全な使用方法と個人情報の自己管理の徹底 2)安全教育の徹底 3)いじめ調査アンケートの実施と活用	[生徒指導課] 1)日常的に行うこととし、学校行事や学年集会では指導を徹底する。 ①頭髮服装検査(年間3回必須、全体行事前) ②ネット被害の現状等講演会の実施 2)立哨指導の継続と安全に対する意識の変容に努める。 ①交通安全教室の開催(年1回全学年) ②各学期ごとに一斉指導を実施 ③クラス毎に年1回の交通安全ホームルーム活動を実施 ④学年集会での注意喚起 ⑤毎月20日マナーアップ活動の実施 3)7月・12月にいじめアンケートを実施し、現状把握すると共に担任面談等に活用する。		

自 己 評 価					学校運営協議会評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校運営協議会委員の意見	
環境問題の理解と身の回りの環境美化実践および防災意識の啓発	(全校レベル)	<p>[環境防災課]</p> <p>1)清掃活動の取組について肯定解答80%以上を目指す。 (R5 78.3%)</p> <p>2)年間に防災避難訓練を2回、机下避難訓練を2回実施する。防災クラブの活動を進める。</p> <p>3)ゴミの分別・資源保護の取組について肯定回答82%以上を目指す。 (R5 81.0%)</p>	<p>[環境防災課]</p> <p>1)教職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。(肯定回答 82.0%)</p> <p>2)防災避難訓練を5月と9月に実施した。5月の地震後の津波を想定した訓練では、3階以上に1次避難をしたのち、グラウンドへ2次避難をした。生徒も落ち着いて迅速に行動することができた。また、防災委員が要所に立つなどし、スムーズで安全な避難を促した。学校長の講話や避難経路の確認などを十分行うことができた。地域のこども園との合同訓練も実施した。校内の緊急地震速報行動訓練(机下避難訓練)を実施した。校内の掲示板や各教室に構内避難経路を掲示し、災害時の避難経路の周知を図った。</p> <p>3)学校内外の清掃活動・ゴミの分別・資源保護に積極的に取り組めた。(肯定回答81.5%)</p>	<p>[環境防災課] (評価B)</p> <p>・学校の環境美化や資源保護等の取組について、生徒は協力的に取り組んだ。生徒会役員と環境委員が特に積極的に取組み、節電・節水、ゴミの分別、文化祭でのゴミ箱の設置や管理等を協力的にやり遂げて校内環境が整った。また、環境委員や有志による通学路清掃奉仕活動にも取り組んだ。</p> <p>・消防庁、気象庁、徳島県などが主催した危機管理訓練に職員・生徒が参加した。定期的な訓練により基本事項の確認ができた。また災害に備えての心構えや非常持ち出し袋等の確認もできた。地元町内会と連携した避難経路の改善と経路の確認もできた。</p>	特になし	<p>[環境防災課]</p> <p>・環境防災委員によるクラス及び全校集会での直接的な呼びかけを徹底し、生徒が協力的、主体的に行動できる力を身につける。</p> <p>・防災避難訓練の早い時期での実施。4月中に実施したい。</p> <p>啓発事項 環境委員 ①校内及び周辺の美化 ②「とくしまGXスクール」に関する活動の推進 防災委員 ①自然災害への対応 特別警報、風雪災害など ②東南海地震への対応 初期避難、防災避難訓練</p>
	(下位組織レベル)	<p>[環境防災課]</p> <p>1)環境委員を中心にさまざまな活動を通して環境問題についての意識啓発をする。</p> <p>2)生徒会と環境委員を中心として啓発を推進する。</p> <p>3)防災委員会を通して、知識や実践力を身につける。</p>	<p>[環境防災課]</p> <p>1)生徒・職員で毎日清掃作業を行う。</p> <p>2)ゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動を推進する。</p> <p>3)防災研修会への参加や防災に関する学校行事を行う。防災クラブ活動を進め、防災意識の啓発も進める。</p>	<p>[環境防災課]</p> <p>1)毎日授業後、生徒・職員が校内の清掃を行った。また、環境委員や有志による通学路清掃奉仕活動も2回実施した。</p> <p>2)教職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組んだ。「とくしまGXスクール」に掲げるゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動を積極的に行った。</p> <p>3)防災委員会を中心に災害避難訓練を実施した。文化祭では、防災に関するポスターや掲示物を展示し、防災意識の啓発に努めた。</p>		

自 己 評 価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校運営協議会委員の意見	
学校外との交流・連携やHPIによる広報活動のさらなる活性化とボランティア活動を支援する校内組織づくりの推進	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	
		[学校評価委員会] 1) 保護者アンケートの回収率80%以上をめざす。 (R5 79.0%) 2) 学校運営協議会を年3回開催する。 (R5 3回開催)	[学校評価委員会] 1) 保護者アンケートの回収率は64.8%で昨年度から減少し、目標値には届かなかった。 2) 学校運営協議会は予定通り年3回実施した。(3回目は3月中旬を予定している)	[学校評価委員会] (評価B) ・今年度よりGoogleFormによるアンケートに変更したが、保護者の回収率の目標達成には至らなかった。 ・学校運営協議会については定期的に実施し、さまざまな意見をいただくことができた。	[学校評価委員会] ・正確なデータを得るためにも回収率の増加に努めたい。 ・丁寧な声かけや対応が少しでも増加につながるよう継続していく。内容についての検討も必要になるが、アンケートの結果をもとに学校運営協議会とも連携してよりよい方向へ導けるよう努力する。
		[情報教育課] 1) ホームページについて改訂を行うとともに、情報の速やかな発信に努める。(更新回数 R5 290回)	[情報教育課] 1) ホームページについては、更新回数が昨年度と比較して増加した。(更新回数 R6 316回) Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信も必要に応じて行うことができた。		[情報教育課] ・引き続きホームページの更新回数の増加に努めたい。 ・引き続き生徒と保護者への情報提供の充実にも努めたい。
		[国際交流課] 1) ドイツ姉妹校との学校間交流を定期的に行う。 2) 県内における国際交流の活動を周知し、積極的な参加を呼びかける。 3) 本校ALT(外国語指導助手)との交流を通して、県内におけるスピーチコンテストへの積極的な参加を呼びかける。	[国際交流課] 1) 隔年での交流のため、今年度は交流はなかった。 2) 四国大学主催の英語セミナーに3年生1名が参加した。 3) 第78回徳島県高等学校英語弁論大会に2年生2名が出場した。	[情報教育課] (評価B) ・教職員間の情報伝達にClassiを用いることで、生徒や保護者への情報提供を適切に行えるよう日常的に活用している。 ・全体的にホームページの更新回数が増えた。	[国際交流課] ・今後も県内における国際交流の研修会などの案内に努め、交流活動に積極的に参加する生徒の数を増やす。また、ドイツとの姉妹校交流については、オンライン形式に加え、隔年で受け入れ等の交流も行いながら、内容をさらに充実させる。
		[特別活動課] 1) ボランティア活動への積極的な参加を呼びかける。	[特別活動課] 1) 各ボランティアを積極的に呼びかけ、生徒の参加を奨励した。	[国際交流課] (評価B) ・リトアニアの高校とオンライン交流ができたことは良かったが、今年度は一度しかできなかった。	
		[総務課] 1) 新型コロナウイルス感染症への対応が見直されたことを受け、以前行っていたPTA活動をできるだけ復活させ、さらに活性化させる。また、ホームページでPTA活動の報告をし、保護者がより興味を持ち、参加しやすい状況をつくる。 2) 業務を円滑に遂行する。	[総務課] 1) 城北祭におけるPTA活動、研修部校外研修(大学視察)を実施した。また、それらの活動を適宜ホームページで報告した。 2) 業務を円滑に遂行することができた。	[特別活動課] (評価A) ・案内した各ボランティア活動に多くの生徒が参加することができた。	[特別活動課] ・様々な分野でのボランティア活動の呼びかけをし、より多くの生徒がボランティア活動に参加できる機会を設ける。
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況	[総務課] (評価B) ・復活できたPTA活動も含めて、円滑な業務の遂行ができた。	[総務課] ・今年度実施した活動をさらに充実させ、より多くの保護者が参加できるよう工夫する。
		[学校評価委員会] 1) 学校評価を充実させ、次年度のさらなる改善に役立てる。 2) 学校運営協議会との協力体制を図る。	[学校評価委員会] 1) 職員・生徒・保護者アンケートを12月に実施した。 2) 学校運営協議会を各学期に1回(5月27日・11月13日・3月中旬予定)開催した。		
		[情報教育課] 1) ホームページ運営上の組織及びホームページの体系について見直しを行う。	[情報教育課] 1) Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信を促すことができた。		
		[国際交流課] 1) ドイツ姉妹校交流の推進 2) 徳島県内におけるスピーチコンテストへの参加の促進	[国際交流課] 1) 今年度はドイツとの交流はなかったため、10月にリトアニアの高校と本校生徒との間でオンライン交流を行った。 2) 県内のスピーチコンテストにおいて、2年生の生徒2名が参加した。		
		[特別活動課] 1) ボランティア活動への積極的な参加の奨励	[特別活動課] 1) 案内したボランティア活動に多くの生徒が参加することができた。 国史跡徳島藩主蜂須賀家墓所清掃ボランティア(春 38名、秋 39名参加) 小松海岸クリーン大作戦(60名参加) とくしまマランボランティア(34名参加予定)		
		[総務課] 1) PTA活動の円滑な運営と充実・活性化 2) 学校行事等における外部との連絡調整	[総務課] 1) 城北祭(文化祭)における保護者・職員バザー、城北祭(体育祭)における研修部売店経営、研修部校外研修(大学視察)を行った。5月にPTA総会、5月・11月にいきいきセミナー、6月に3学年進路説明会、10月に2学年進路説明会、12月に3学年部会を開催した。 2) 城北祭では、今年度は全学年のPTA役員に参加していただいた。		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校運営協議会委員の意見		
運営組織の活性化と教職員研修の充実	(全校レベル)	<p>評価指標</p> <p>[情報教育課]</p> <p>1)情報セキュリティおよびGIGAスクール構想推進のための研修を随時実施する。</p> <p>[コンプライアンス委員会]</p> <p>1)事件・不祥事等、時宜を捉えて全教職員に啓発や短時間研修を年間20回以上行う。外部講師(コンプライアンス推進室長)を招聘しての研修を1回は行う。</p> <p>2)教職員間の報・連・相を円滑にし、教員1人が問題や悩みを抱え込まないようとともに危機管理意識を高める。</p> <p>3)業務内容の精選・改善を組織的に推進し、教職員の時間外在校等時間の削減を図る。</p> <p>[保健厚生課]</p> <p>1)教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施する。</p> <p>2)教職員対象の健康相談会を2学期に実施する。</p> <p>3)各種奨学金の案内や説明会を実施し、必要とする生徒に必要な情報を伝えることで、生徒の就学の機会の確保につなげる。</p> <p>[特別支援教育課]</p> <p>1)教職員対象の特別支援教育に対する研修を1回以上実施する。</p> <p>2)学校生活において支援の必要な生徒について校内で共通理解を図る。</p> <p>[学校全体]</p> <p>1)時間外在校等時間の削減に努める。</p> <p>2)ICTによる業務改善を推進する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>[情報教育課]</p> <p>1)情報セキュリティおよびGIGAスクール構想推進のための研修を、年4回実施した。</p> <p>[コンプライアンス委員会]</p> <p>1)事件・不祥事等、時宜を捉えて全教職員に啓発や短時間研修を年間36回行った。外部講師(コンプライアンス推進室長)を招聘しての研修を1回実施した。</p> <p>2)教職員間の報・連・相を円滑にし、1人で問題や悩みを抱え込まないようとともに危機管理意識の向上を図った。</p> <p>3)学校全体で業務改善やペーパーレス化に取り組み、時間外在校等時間は4～12月平均で昨年比-15%であったが、依然として在校等時間は長い傾向にある。</p> <p>[保健厚生課]</p> <p>1)教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施した。</p> <p>2)教職員対象の健康相談会を2学期に実施した。</p> <p>3)各種奨学金の案内や説明会を実施し、必要とする生徒に必要な情報を伝えることができた。</p> <p>[特別支援教育課]</p> <p>1)2学期10月に特別支援教育研修を実施した。学校教育相談の現場からスクールカウンセラーによる緊急支援活動について理解を深めた。</p> <p>2)教科担任会を8回特別支援教育委員会を8回開催し、支援の必要な生徒に対して共通理解を図り、その後の指導に生かした。</p> <p>[学校全体]</p> <p>1)時間外在校等時間は4～12月平均で昨年比-15%であったが、依然として在校等時間は長い傾向にある。</p> <p>2)Classiによる出欠連絡や情報発信、Formsなどを用いたアンケート調査など、ICTを活用した業務改善に取り組んだ。</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>[情報教育課] (評価B)</p> <p>・今年度は年4回の研修を実施できた。また、職員朝礼等でその都度必要事項の連絡を行った。</p> <p>・研修の機会の確保が困難であったが、Microsoft Teamsの効果的な使用については、研修等を通じて紹介することができた。</p> <p>[コンプライアンス委員会] (評価B)</p> <p>・コンプライアンス関係の啓発や研修は予定通り実施することができたが、時間外在校等時間の多い教職員は一定数おり、さらに業務の効率化や削減に取り組む必要がある。</p> <p>[保健厚生課] (評価A)</p> <p>・教職員対象の救急救命講習会や健康相談会、各種奨学金に関する手続き等計画通りに実施することができた。</p> <p>[特別支援教育課] (評価A)</p> <p>・学校教育の現場から支援のあり方等、特別支援教育について研修を実施できた。支援の必要な生徒に対して共通理解を図ることができた。コンサルテーションにおいて臨床心理士と共通理解を深め、生徒を支援することができた。</p>	<p>・研修会等については、回数を指標にするのではなく、参加率や、研修後の意識の変容を指標にした方がよいのではないかな。</p> <p>・ICTの活用による業務の効率化は、今後も継続してほしい。</p>	<p>[情報教育課]</p> <p>・来年度も今年度同様、うまく研修の機会を確保したい。また、必要に応じてその都度連絡もしたいと考えている。</p> <p>・次年度はMetaMoJi Classroomについての研修の機会を確保し、実施したいと考えている。</p> <p>[コンプライアンス委員会]</p> <p>・さらなる業務の効率化や削減に取り組む、教職員の在長時間削減を図る。</p> <p>[保健厚生課]</p> <p>教職員の健康状態に留意しつつ、各種講習会や相談会をさらに充実させたい。また、HP等を利用した情報発信や、業務の効率化をさらに進めたい。</p> <p>[特別支援教育課]</p> <p>・支援を必要としている生徒に対し継続してスクールカウンセラーを活用しながら支援する。また、共通理解を図るために臨床心理士とのコンサルテーションを実施し、生徒個々に応じた丁寧な支援を行う。</p> <p>[学校全体]</p> <p>・時間外在校等時間の削減や業務の効率化に関しては依然改善の余地があり、今後も継続して取り組む必要がある。</p>
	(下位組織レベル)	<p>活動計画</p> <p>[情報教育課]</p> <p>1)教職員研修の充実</p> <p>2)GIGAスクール構想の推進</p> <p>[コンプライアンス委員会]</p> <p>1)教職員研修の充実</p> <p>2)円滑なコミュニケーションの促進と風通しの良い職場環境づくり</p> <p>3)ワークライフバランスの推進とメンタルヘルスの保持増進</p> <p>[保健厚生課]</p> <p>1)教職員対象の救急救命講習の充実</p> <p>2)教職員対象の健康相談会の実施</p> <p>3)奨学金に関する情報提供の工夫</p> <p>[特別支援教育課]</p> <p>1)特別支援を必要とする生徒の特性に対する対応を考えケアに努める。</p> <p>[学校全体]</p> <p>1)教職員の時間外在校時間の把握</p> <p>2)ICTの活用による業務の効率化</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>[情報教育課]</p> <p>1)ICTを用いた全教職員に対する研修を2学期に実施した。</p> <p>2)ChromeBookの効果的な使用例については、研修等を通じて紹介でき、授業及び学年単位・HR単位の情報発信に活用できた。MetaMoJi Classroomについても、教育委員会の研修を利用することができた。</p> <p>[コンプライアンス委員会]</p> <p>1)夏と冬の2回のコンプライアンス推進週間でeラーニングを実施するとともに時宜を得た啓発等を36回行った。12月には計画取り教職員対象の研修を実施した。</p> <p>2)避難訓練や具体的な事例を基に我が事と捉えた研修の機会を持ち、危機管理意識の向上を図った。</p> <p>3)各分掌・教科で業務内容の見直しやICTの活用に取り組み、業務軽減の一端を担うことができた。</p> <p>[保健厚生課]</p> <p>1)教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施した。</p> <p>2)教職員対象の健康相談会を学校医を招き2学期末に実施した。</p> <p>3)各種奨学金の案内や説明会を実施するとともに、ホームページにも掲載し、必要とする人に必要な情報を伝えることができた。</p> <p>[特別支援教育課]</p> <p>1)2学期10月に特別支援教育について研修会を実施した。</p> <p>2)共通理解を図るため適宜ケース会議・教科会を開催し、支援のあり方を話し合った。</p> <p>3)スクールカウンセリングを希望する生徒が有効に活用し、コンサルテーションにおいて支援の方法を話し合った。</p> <p>[学校全体]</p> <p>1)出退勤システムの正確な入力による勤務時間の見える化を図り、時間外勤務が月80時間を超える者に対しては、勤務時間削減に努めるよう管理職が促した。</p> <p>2)Joruriポータルの掲示板やタブレットを活用し、職員朝礼や職員会議におけるペーパーレス化を進めることができた。</p>			